

クリスマスだというのに、感染者数が相変わらず増え続けているとか、前首相が歯切れの悪い答弁をしたとか、すっきりしない話題ばかりが届きます。プレゼントとは言いませんが、心が温まるような話題が届いてほしいですね。

上の画像を見てください。何だかわかりますか。職員玄関の下足箱の上にあります。何だか丸い玉のようなものがぎっしり入っています。それが三袋……一体何でしょうね。



これはドングリです。そよかぜの森に落ちていたものを、掃除担当の生徒たちが集めたものです。それを用務員のHさんが袋に詰めました。このドングリはどうなるのでしょうか。皆さんだったらどうしますか。実は、このドングリは市役所に届きます。届いたドングリは担当者のもとに行き、いくつかに振り分けられます。そして、市内の幼稚園に配られるのです。幼稚園と聞けば、ドングリの使い道の察しはつきますよね。そうです。園児たちの遊びや学びの材料として使われるのです。ドングリを手にとって、楽しそうに工作したり遊んだりしている幼い子の姿が目には浮かぶようです。ドングリが幼稚園に届くようになったのはなぜでしょうか。実は、Hさんのひとことが始まりのようです。そよ風の森に落ちたドングリを集めたHさんは、それを校区のある幼稚園の先生に「ドングリがあるけど、要（い）る？」と尋ねました。返事はもちろん「ほしい」でした。そこから、園児へのドングリプレゼントが始まりました。

他の園もほしいのではないかと思ったHさんは、それぞれの園に届けたかったようですが、さすがに校区が広すぎてそれではできません。そこで、市役所の担当者に協力を依頼して、複数の園に配ってもらうことにしたのです。

「気は心」と言います。他の人のためにすることは、たとえわずかでも、それは真心の表われだという意味です。集められたドングリを処分することは簡単です。それをせずに、どこかにそれを求めている人がいるから尋ねてみよう……園児へのドングリのプレゼントは、そこに端を発しているのです。

ドングリを集めてくれた二年生の掃除の生徒たち。そして、それを袋に詰め届けてくれたHさん。両者からのプレゼントはきつと園児たちを喜ばせることでしょう。今日はプレゼントをする側の話でした。心温まったかな？（十二月二十五日 記）